

取り付け手順 2

4-2

② ブレードホースのつばとジョイントのつばがすき間なく合うまで差し込んでください。

【△注意】
 ・ブレードホースはR60以上の大きな曲げ半径になるように曲げてください。鋭角に曲げたり、混合栓根元に曲げたりしないでください。(A図) 急に曲げたり折ったりすると、亀裂や破損を起こし、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
 ・上下戻り配管はやめてください。(B図) ウォーターハンマーなどでブレードホースが振動した際、屈曲部からの水漏れ発生の原因となります。
 ・ブレードホース同士などへの不要な接触は避けてください。摩擦による外傷で、ホース性能の劣化の可能性があります。
 【お願い】ブレードホースは切断しないでください。

③ クイックファスナーを、ブレードホースとジョイントのつばにはめます。

【△注意】ブレードホースを上につばに引っ掛けて、抜けないことを確認してください。しっかりとまっていないと漏水して家財などを濡らすおそれがあります。

④ クイックファスナーに保護キャップをはめます。この時、保護キャップはブレードホースにはめてから、クイックファスナーまでおろします。

一度はずしたブレードホースを再接続する場合
 ・レバーハンドルを全開吐水状態で湯水に振り、湯側・水側それぞれのブレードホース内の水を抜いてください。
 ・混合位置でレバーハンドルを開いた状態で、「4 止水栓との接続」に従いブレードホースを接続してください。

【△注意】ブレードホース内の水を抜かないと、正しく施工できなかったり、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

4 ページ

5

シャワーホルダーの取り付け

① シャワーホルダーより取付ナット類を取りはずし(トップシールパッキンははずさない)カウンターの穴にシャワーホルダーを差し込んでください。
 ② パッキン類を右図の順に差し込み、取付ナットで固定します。

【△注意】
 取付ナットの締め付けは、専用工具KPS955(別売)で確実に行ってください。しっかり締め付けられていないと、本体が緩んだり、がたつきが発生し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

⑥-1

シャワーホースの接続

① (一般地仕様の場合) カプラーとシャワーホースの接続が緩んでいないか確認してください。緩んでいる場合はカプラー手締め後、約30度増し締めしてください。(締め付けトルクの目安は約100N・cm)
 (寒冷地仕様の場合) 水抜き付きカプラーとシャワーホースを接続します。水抜き付きカプラー手締め後、約30度増し締めしてください。(締め付けトルクの目安は約100N・cm)

【△注意】カプラー等の接続の際は、以下の内容に注意してください。
 漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
 ※カプラーの締め付け不足や締め付け過ぎ
 ※シャワーホースの真ちゅう部に以外に工具をかけない
 ※シャワーホースはねじらない

② カプラーのキャップをはずし、スライダーを下に下ろしてからプラグへカチッと音がするまではめ込みます。(寒冷地仕様の場合はエルボが下向きになっていることを確認します。) 取り付け後、カプラー(寒冷地仕様は水抜き付きカプラー)を引っ掛けてはずれないことを確認します。

5 ページ

6-2

【△注意】カプラー取り付け後、確実に接続されているか、下記の確認を行ってください。確実に接続されていないと、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
 ・スライダーが上がっていること

【△注意】シャワーホースは止水栓に引っ掛けないで、給湯パイプの外側にぶらさげてください。シャワーホースが引き出しにくくなったり、ホース損傷により漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

洗面台に水受け用タンクがある場合
 シャワーホースの出し入れを繰り返しても確実にタンクに収まるようにしてください。(ホースとの接続の銅管部を少し曲げるにより調節できます。)

6 ページ

取り付け後の点検と清掃 2

止水栓による流量の調節方法

止水栓による流量の調節方法は下記の方法で行ってください。
 レバーハンドルのクリック手前で適量(湯側・水側それぞれが5L/min程度)になるように止水弁で調節してください。水圧が低く、クリック手前で適量が得られない場合は、止水弁を全開にしてください。

【△注意】修理を依頼される前に取扱説明書の「故障かなと思ったら…」を参照し、お確かめください。
 ➡ 取扱説明書「故障かなと思ったら…」参照

7 ページ

取り付け後の点検と清掃 1

通水確認

【△注意】水栓を取り付け後、通水して湯水の出し止めを5~6回繰り返し、配管接続部および水栓から水漏れがないことを確認してください。確認しないと、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

泡まつ器・シャワーフェイス清掃のお願い

シャワーヘッドの泡まつ器・シャワーフェイスにゴミ等がたまりやすくと、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりしますので、施工後必ず清掃してください。

① 湯水全開で20~30秒吐水させます。
 ② シャワーヘッドのシャワーフェイスをはずして泡まつ器を取りはずします。
 ③ 泡まつ器・シャワーフェイスをブラシで水洗いします。

清掃後は、はずした逆の手順で組み立ててください。

7 ページ

カートリッジのメンテナンスをする場合

カートリッジのメンテナンスをする場合は、専用工具G26(別売)を使用して本体を保持してください。

【△注意】修理技術者以外の方は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。水栓本体内部のメンテナンスは、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼ください。

① 湯水の止水弁(2か所)または元栓をしっかり締めて、湯水が出ないことを必ず確認してください。
 ② レバーハンドルをはずし、本体カバーをはずします。
 ③ 工具を使用して固定ナットをはずしてカートリッジを取り出します。

【△注意】専用工具G26(別売)を使用して本体を保持してください。カートリッジのメンテナンス後は、はずした逆の手順で組み立ててください。
 【△注意】固定ナットの締め付けトルクの目安は約1750N・cmです。しっかり締め付けられていないと漏水するおそれがあります。

【水栓本体のメンテナンスをする場合】
 【△注意】修理技術者以外の方は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。水栓本体内部のメンテナンスは、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼ください。
 ・メンテナンスは、専用工具G26(別売)を使用して本体を保持しながら行ってください。